

第3学年 音楽科学習指導案

1 日 時 令和2年10月29日(木) 第6校時(2:15~2:55) [第2音楽室]

2 学年・組 第3学年2組(23名)

3 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう
(教材名) ふじ山

4 題材の目標

- (1) 音の上がり下がりやフレーズなどの旋律の特徴、拍子や強弱と曲想との関わりに気付き、それらを生かすために必要な表現の技能を身に付ける。
- (2) 旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりについて考え、声の強さや出し方を工夫したりフレーズを意識したりしながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 旋律の特徴を生かした表現を工夫しながら、友達と協働して表現する学習に進んで取り組む。

5 題材の評価規準

知・技	<p>知①曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。</p> <p>知②楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。</p> <p>技①思いに合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p>技②思いに合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。</p>
思・判・表	<p>①旋律・拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②旋律・拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>
態	<p>①旋律の特徴を生かした表現を工夫しながら、友達と協働して表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱・器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 題材について

【育成を目指す資質・能力】

本題材の内容は、学習指導要領において次のように示されている。

《歌唱》

- ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
- イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
- ウ(イ)思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けること。

《器楽》

- ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
- イ(イ)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くこと。
- ウ(イ)思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けること。

〔共通事項〕

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

(本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律・拍)

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

(新しく学ぶ音符、休符、記号や用語：4分の4拍子・4分の3拍子・タイ)

【教材観】

「とどけよう このゆめを」 安西 薫 作詞／長谷部 匡俊作曲

4拍子の学習に加え、リコーダーと歌唱の融合を目的として作曲されたオリジナル曲。ABの二部形式になっており、前半は跳躍進行の旋律で活気に弾む感じ、後半はリコーダーが加わり順次進行の旋律でなめらかな感じで、曲想の違いを感じ取りやすい曲である。楽譜で確かめたり、音の高さに合わせて手を上下に動かしたりして、音の上がり下がりを感じ取り、表現に生かしていくようにする。

「あの雲のように」 英龍 明子 作詞／作曲者不明／飯沼 信義 編曲

ゆったりとした3拍子の拍にのって、レガートでのびのびとした歌声をつくるのに適した曲である。①パートが主旋律、②パートが副次的な旋律になり、歌と楽器とを組み合わせても、楽器と楽器とを組み合わせても、響き合いを味わうことができる。2フレーズ目・3フレーズ目は②パートがカノンになっているので、旋律を重ねやすい。

「ふじ山」 文部省唱歌／巖谷 小波 作詞

日本を代表する山を象徴する歌詞で、雄大さや親しみやすさを感じさせる共通教材である。旋律の音の上がり下がりから、曲の山を見付け、見つけた曲の山の表現を工夫するのに適した曲である。3フレーズ目は旋律が上行し、4フレーズ目の曲の山では最高音から始まることや1～3フレーズ目とはリズムが違うこと、歌詞の内容などから曲の山を見つけられるようにする。また富士山の写真を提示することで様子を思い浮かべやすくしたり、山へ声を伝えるつもりで遠くへ声を響かせるように歌ったりして、試行錯誤しながらどのように歌うかについて思いや意図をもったり、音楽表現に必要な技能を身に付けたりできるようにする。

【児童観・指導観】

本題材は、旋律に着目し、その特徴を感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想を捉えたりできるように進める。音楽に合わせた体の動きや楽譜を手掛かりにして、旋律の特徴や音の上がり下がりが生み出す曲の山を感じ取ったり、歌詞の表す様子と感じ取った旋律の特徴との関わりを考えたりしながら、それを生かした歌い方の工夫をしていく。

その際、歌詞の内容やフレーズを基に、呼吸や発音に気を付けて歌う技能や、互いの歌声や音を聴き合いながら演奏する技能も育てていく。

		学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
歌唱	思・判・表	・「茶つみ」では、同じ旋律、似ている旋律を見付け、どんな歌い方をすればよいか意見を出し合い、歌い方を試していた。	・縦書きの歌詞や挿絵を参考にした図や写真を掲示することで、歌詞の意味や様子を思い浮かべることができるようにする。 ・旋律の特徴を生かした歌い方や声の出し方を工夫できるようにする。
	知	・「友だち」では、3フレーズ目の音がかんたん上がっていることに気付き、だんだん強く歌うと、曲の感じに合った歌い方になることに気付いていた。	・「とどけようこのゆめを」では、図形楽譜を提示することで、アとイの音の上がり下がりの違いに気付くようにする。 ・「ふじ山」では、拡大楽譜を示すことで、旋律の音の上がり下がり意識できるようにする。

器楽	技	<ul style="list-style-type: none"> ・「海風きって」では、音が高くなったり、明るい声で歌おうとすると無理に力が入ったり、歌声ではなく話すような声で歌ったりしてしまう児童もいた。 ・新型コロナウイルス感染症対策で、マスクをしたまま小さな声で口ずさんだり鼻歌にしたりすることが多かったため、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能についての指導はまだあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「歌声」を参考にして、柔らかく響きのある声で歌うようにする。 ・音程が取りにくいところは階名唱したり、手で旋律の音の高さを表しながら歌ったりするようにする。 ・本題材でも、感染対策を講じながら、マスク着用で歌う。歌声につなげるために姿勢や表情については指導し、思いや意図を生かした歌唱になるように話し合うようにする。
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ・「きれいなソラシ」では、1フレーズ目の終わりは音が上がっているので続く感じに、2フレーズ目の終わりは音が下がっているのでおさめる感じに演奏したいという思いをもつことができていた。 ・「海風きって」では、アの旋律とイの旋律を重ねて演奏することができたが、互いの歌声や音を聴き合いながら演奏することは難しかったため、演奏するグループと聴くグループに分けた。旋律の重なりによるきれいな響きを感じ取りながら演奏している児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「とどけようこのゆめを」では、イの部分のなめらかな感じに合うように、リコーダーの副次的な旋律をどのように演奏するかについて考えるように助言する。 ・「あの雲のように」では、リコーダーと歌やリコーダーとリコーダーの響き合いを互いに聴き合いながら演奏できるように、場の設定をする。旋律の重なりによる響きを言葉で交流し、よさや美しさを感じ取れるようにする。
	知	<ul style="list-style-type: none"> ・タンギングや息の強さ、運指で音色が変わることに気付いていた。 ・歌うような息使いでリコーダーを演奏すると、音色が変わることに気付いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の音ではあるが、スモールステップで、階名唱、リズム打ち、タンギング唱、運指、演奏というように、曲想に合った音色になるように進める。
	技	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように演奏したいかという思いをもっているも、それを演奏で表現することが難しい児童もいた。 ・新型コロナウイルス感染症対策で、運指の確認だけをしたり、飛沫感染防止のために少しだけ演奏したりしているため、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能についての指導はまだあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あの雲のように」では、3拍子の拍の流れにのって演奏できるように、体を動かしながら聴いたり、1拍目を意識して体を揺らしながら歌ったりして、なめらかに演奏できるようにする。 ・レの音が続くところでは、タンギングが強くなりすぎないように、柔らかく響く音を出している子がいれば、広めるようにする。

○本題材における教材について

7 指導計画

【手立て ！配慮事項 ㊟個別支援】

	時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価
歌 唱	1	○「とどけよう このゆめを」の範唱を聴き、曲想を感じ取り、拍にのって歌詞唱する。 ◆アとイの曲の感じの違いに気を付けながら歌おう。 アが弾んだ感じがするのは、音が上がったり下がったりしているからだね。イが滑らかな感じがするのは、音の上がり下がりがあまりないからだね。 ○4拍子を意識して、歌とリコーダーの旋律を重ねて演奏する。	△凶形楽譜を提示することで、アとイの音の上がり下がりの違いに気付くようにする。 △拍にのるために、2分音符や付点2分音符、4分休符を意識して演奏するようにする。	知① 技①
	2	◆イの歌に合わせて、リコーダーの旋律を演奏しよう。 イのなめらかでゆったりとした感じを表現するために、2分音符や付点2分音符のところをしっかりとのぼして吹こう。アの細かい音符は、遅れずに正しく拍にのって歌おう。		
歌 唱 ・ 器 楽	3	○「あの雲のように」の範唱を聴き、旋律の特徴を捉えて歌詞唱する。 ◆音の上がり下がりに気を付けながら、拍にのって歌おう。 1・3・4フレーズ目は、同じ音の高さから始まっているね。1・3フレーズは、同じだね。2フレーズ目は低い音から始まっているけれど、音の上がり下がり以外のフレーズとほとんど同じだね。4フレーズだけ音の上がり下がりが違うね。	△1拍目を意識して、体を動かして聴くことで、3拍子を感じ取りやすくする。 △教科書を参考にして、柔らかく響きのある声で歌うようにする。	知①
	4	○曲の感じを生かして、㊟のパートをリコーダーで演奏する。 ◆曲の感じを生かして、リコーダーで㊟のパートを演奏しよう。どのようなことに気を付けたいのだろうか。 音をつなぐように演奏すると滑らかに演奏できて、柔らかくて響く感じが出せるね。息つぎに気を付けて、レガート（なめらかに）で演奏したらいいね。	△階名唱をしたり楽譜を確かめたりすることで、㊟のパートが歌詞唱の旋律（㊠のパート）を追いかけられていることに気付けるようにする。	知② 技②
	5	○歌とリコーダーを合わせて演奏する。 ◆互いの歌声や音を聴き合いながら演奏しよう。 リコーダーの音が聴こえにくいから、少し音量を下げよう。 歌声の響きに合うように、滑らかにリコーダーを演奏しよう。	△㊠のパートもリコーダーで演奏して、リコーダーとリコーダーの響き合いを感じるようにする。	思②
歌 唱 本 時	6	○「ふじ山」の範唱を聴き、旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付いて歌詞唱する。 ◆歌詞の様子を思い浮かべながら歌おう。 この曲の歌詞は、富士山が美しく堂々とした姿を表しているね。旋律は、3フレーズからだんだん音が高くなって、気持ちが盛り上がっていくね。4フレーズのはじめが、一番盛り上がるように歌いたくなるね。歌詞も「富士は日本一の山」だけど、曲の感じも一番堂々としているね。	△富士山の雄大さや美しさをイメージするために写真を見たり、縦書きの歌詞を読んだりする。 △拡大楽譜を示すことで、旋律の音の上がり下がりを意識するようにする。 △音程が取りにくいところは階名唱したり、手で旋律の音の高さを表しながら歌ったりするようにする。 △どのように歌えばよいかを	知①
	7	○曲の山を意識し、曲想に合った歌い方を工夫する。 ◆見つけた曲の山を生かして歌うには、どのような歌い方をすればよいのだろうか。		思①

	<p>富士山の美しく堂々とした姿を思い浮かべて歌おう。そのためには、曲の山に入る前の3フレーズ目はだんだん強く歌うようにすると、自然と曲の山につながれると思うよ。そして4フレーズ目の最初を一番強くゆったりと歌いたいね。</p> <p>8 ○曲の山を生かして歌詞唱する。 ◆曲の山を感じながら、声の強さや出し方を工夫して歌おう。 3フレーズ目からだんだん大きくなるように歌って、4フレーズ目の「富士は」の「ふ」を速くのほうに届かせるようにして歌うと、もっと曲の山らしくなったね。前半は、言葉をはっきりと弱めに歌おう。そのためには、口をしっかりと開けて、息継ぎはすばやくするといいね。</p> <p>○題材における学びを振り返る。</p>	<p>話し合い、拡大楽譜に話し合った内容を書き込むようにする。</p> <p>△前時に書き込んだ拡大楽譜を提示し、全体で共有しながら学習を進めるようにする。</p> <p>◎学級を2つのグループに分け、互いに聴き合いアドバイスすることで、より良い表現をすることができる。</p>	<p>技①</p> <p>態①</p>
--	---	---	---------------------

記録に残す主な評価場面

- ・知①「前半と後半の曲想の違いに気付き、旋律の特徴を感じ取って歌っている様子、歌唱の聴取」 【1時間目】
- ・思②「旋律の特徴を感じ取って曲想にふさわしい歌い方やリコーダーの演奏の工夫についての話し合っている様子の観察、演奏の聴取」 【5時間目】
- ・技①「強弱や声の出し方に気を付けて響きのある声で歌っている歌唱の聴取」 【8時間目】
- ・態①「発言の内容にみられる学習内容への興味、歌っているときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、リコーダーを演奏しているときの行動の観察、学習の振り返りの発言または記述の内容」 【8時間目】

8 本時について (6/8)

(1) 目標 「ふじ山」の範唱を聴き、歌詞の意味を考え、旋律の特徴と曲想との関わりに気づき、歌詞唱できるようにする。

【知①】

(2) 展開

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 *留意点 ◎個別支援
<p>○「ふじ山」の範唱を聴いて、感じ取ったことや聴き取ったことを話し合う。</p> <p>◆曲を聴いて、どんなことを感じ取りましたか。また、聴き取ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆったりとした曲だね。 ・ 速さがゆっくりだから、堂々とした感じがするよ。 ・ 昔の言葉のようなのが出てくるから、日本風の感じがするよ。 ・ 静かだけど盛り上がる所がある ・ せんりつが上がったり下がったりしているね。 ・ 「ふじは日本一の山」という歌詞があったよ。 <p>○「ふじ山」の範唱を歌詞に着目して聴く。</p>	<p>*感じ取ったことと聴き取ったことを関連付けながら話し合うことで、曲想や曲の特徴から表したい音楽表現を学級全体で共有できるようにする。</p> <p>◇拍に合わせて体を揺らしながら聴いたり、旋律の動きに合わせて手を上下しながら聴いたりして曲想を感じ取れるようにする。</p> <p>*旋律を口ずさみながら、繰り返し聴き、歌詞を書いた短冊を用意し、出てきた歌詞から黒板に貼っていく。</p>
<p>歌詞の様子を 思いうかべながら 歌おう</p>	
<p>○歌詞の意味や歌詞の表す様子について話し合う。</p> <p>○歌詞の様子を思い浮かべながら、旋律を歌詞唱する。</p> <p>◆歌詞の様子を思い浮かべながら歌いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4フレーズ目が一番盛り上がっているね。 ・ 3フレーズ目もだんだん盛り上がっている感じがする。 ・ 4フレーズ目を一番盛り上げて歌うには、強くしたらいかな。 ・ 3フレーズ目からだんだん強くしてみよう。 ・ 最後をおさめるように歌いたい。 <p>○めあてを再確認し、歌詞の様子を思い浮かべながら、本時のまとめとして歌詞唱する。</p> <p>○ふりかえりを話し合う。</p>	<p>◇ふじ山の写真を提示することで、イメージが湧きやすいようにする。</p> <p>*拡大楽譜を用意して、児童の意見を書き込む。</p> <p>*児童の発言や曲の特徴を捉えた体の動きなどから、どこをどのように歌いたいかについて話し合う。</p> <p>*ペア学習を行い、考えを広げようとする。</p> <p>◇どのように歌いたいかについて児童の考えをフラッシュカードにすることで、表現の工夫につなげるようにする。</p> <p>*児童の考えた歌い方をためしながら、工夫するようにする。</p> <p>*聴き役を立て、曲想を生かした歌い方になっているか、互いに評価しながら歌い方を工夫していくようにする。</p> <p>*感じ取ったことやめあて、工夫したことを確かめるようにする。</p>

(3) 評価

【知①】 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。

「おおむね満足できる」状況と判断できる「歌っている様子・歌唱の内容」

歌詞と曲想の関わりに気づき、歌詞の様子を思い浮かべて歌っている。

- ・歌詞の意味について、ふじ山のイメージと共に考えている様子。
- ・4フレーズ目の曲の盛り上がりと「ふじは日本一の山」という堂々とした様子のように、曲想と歌詞が関わる部分で、歌い方の工夫を考えて試している歌唱。

(4) 板書計画

歌詞の様子を 思いうかべながら 歌おう。

感じとったこと

- ・ゆったりとした
- ・静かだけど盛り上がる
- ・日本っほい
- ・堂々とした感じ

ききとったこと

- ・ゆっくり
- ・音の上がり下がりがある
- ・「ふじは日本一の山」は1番も2番も言っている。

拡大楽譜

だんだん大きく

もり上がる！！

二
番

一
番

縦書きの歌詞

(5) 活動の場

ピアノ

黒板

CD
プレーヤ

スピーカー

